

2024 年度 長岡大学シラバス

授業科目名 科目コード	地域経済学 (Topics of Regional Economics) 372052-14-120					担当教員	瀧波 慶信 (タキナミ ヨシノブ)		
科目区分	専門科目	必修・ 選択区分	必修	単位 数	2	配当年次	2 年次	開講期	後期
科目特性	地域志向科目／知識定着・確認型 A L								

① 授業のねらい・概要

地域経済は日常生活の基盤である。さらに地域社会のあり様を決定づける最も重要な要素の一つである。こうした地域経済の成り立ちとその発展の方向性を理論的に理解することを目指す。

② ディプロマ・ポリシーとの関連

専門的知識・技能を活用する能力

③ 授業の進め方・指示事項

基本的に講義形式であるが、学生自らが自分の住むまちについて調査することが必要。

④ 関連科目・履修しておくべき科目

特になし。

⑤ テキスト（教科書）

テキストは指定しない。各回、レジュメを配布する。

⑥ 参考図書・指定図書

河合雅司（2020）『未来を見る力 人口減少に負けない思考法』PHP 新書

⑦ 評価 A に対応する具体的な学習到達目標の目安

- （ i ）地域の経済について考える視点を身に付ける。
- （ ii ）理論に加えて、現実の経済動向や政策等に学ぶことができる。
- （ iii ）諸課題解決の方策を提言できる。

⑧ ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	S	A	B	C	D
	到達目標を越えたレベルを達成している	到達目標を達成している	到達目標達成にはやや努力を要する	到達目標達成には努力を要する	到達目標達成には相当の努力を要する
(i) 地域の経済動向	自分自身の目でまちを含めた地域の課題を発見することができる	資料等を参考に諸課題の発見ができる	見聞きした諸課題を理解できる	見聞きした諸課題が理解できない	諸課題について考えることをしない
(ii) 現実の経済動向、政策	自分の住むまちについて様々な方法を用いて検討できる	自分の住むまちの経済動向について理解できる	自分の住むまちの諸課題を発見しようとする態度はある	自分のまちの諸課題を感じることはできる	自分のまちの諸課題を考えることができない
(iii) 地域経済の諸課題解決に向けて	現実の諸課題について理解し、解決策を提言できる	現実の諸課題について理解できる	現実の諸課題についての理解が不十分	現実の諸課題について理解しようという態度は見受けられる	現実の諸課題について全く理解できない

⑨ 学習到達目標（評価項目）	定期試験（レポート含む）	小テスト	課題	発表・実技	授業への参加・意欲	その他	合計
総合評価割合	50%			40%	10%		100%
(i) 地域の経済動向の理解	10%			10%	2%		22%
(ii) 自分のまちの経済と行政	20%			15%	4%		39%
(iii) 地域経済の振興	20%			15%	4%		39%
フィードバックの方法	自分の住む地域の時事問題を毎回提示させる。						

⑩ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）
日頃から身近な社会の出来事に関心を持って生活しよう。

⑪ 授業計画と学習課題			
回数	授業の内容	授業外の学習課題と時間（分） （※特別な持参物）	
1	ガイダンス	授業の概要、進め方	120 分

2	地域経済の成り立ち①（理解する）	地域経済の理解のための基礎理論	120 分
3	地域経済の成り立ち②（発展させる）	地域経済の発展に関する基礎理論	120 分
4	戦後日本	戦後の政策を理解	120 分
5	グローバル化と地域経済	世界の中の日本を考察	120 分
6	新潟県の経済①（国内の位置）	日本の中の新潟県の位置付け	120 分
7	新潟県の経済②（課題）	新潟県経済の課題を考察	120 分
8	発表①（A グループメンバー）	個人発表	120 分
9	発表②（B グループメンバー）	個人発表	120 分
10	長岡市の経済①（漁業）	長岡市の漁業を考察	120 分
11	長岡市の経済②（農業）	長岡市の農業を考察	120 分
12	長岡市の経済③（商業）	長岡市の商業を考察	120 分
13	長岡市の経済④（工業）	長岡市の工業を考察	120 分
14	長岡市の経済⑤（観光業）	長岡市の観光業を考察	120 分
15	まとめ	地域経済発展に向けて	120 分

⑫ アクティブラーニングについて

講義の終盤に、振り返り用紙を配付し、各自が本時のまとめを記入する。

※以下は該当者のみ記載する。

⑬ 実務経験のある教員による授業科目

実務経験の概要

実務経験と授業科目との関連性